

津波シミュレーション Q&A

平成24年3月末に県が公表した津波シミュレーションの調査結果は、マスコミなどでも大きく取りあげられました。そこで、市では、公表の内容を市民の方々に正しく認識していただくため質疑応答形式で分かりやすくまとめてみました。ぜひ、参考にしてください。

Q どんな地震による津波を想定しているの？

A 東日本大震災のような海溝型地震は、県では想定していませんが、あらゆる津波発生の可能性を考慮して、発生の確率は極めて低い、3～5千年に1度程度の断層型地震（呉羽山断層帯）による津波を想定しています。念のため、他にも糸魚川沖や能登半島沖の断層による津波も想定しています。

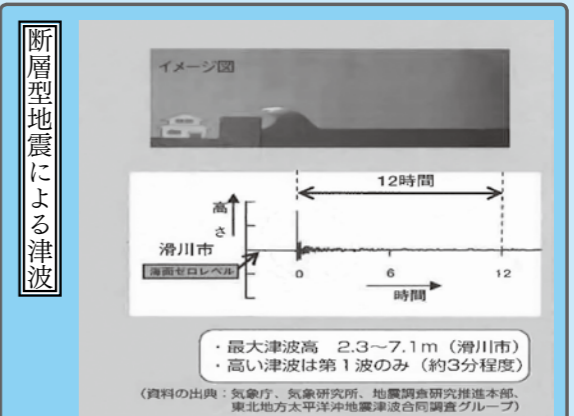
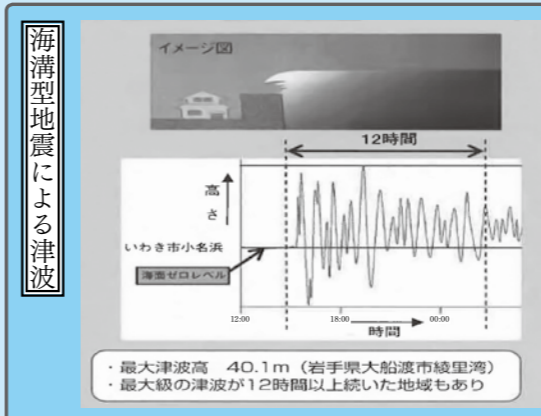
Q 津波シミュレーション調査とは？

A 東日本大震災の教訓を踏まえ、住民生活の安全・安心の確保のため、県内に影響を及ぼす恐れのある津波を想定し、その津波における津波高、津波の到達時間などを調査したものです。



Q 海溝型地震と断層型地震による津波の違いは？

A 一般的に海溝型地震は広範囲にわたり津波が発生し、しかも、津波高が高く、津波が継続する時間は長くなるとされています。一方で、断層型地震による津波は、発生範囲が狭く、津波高も低い上、継続時間も短い傾向にあるとされています。
 なお、呉羽山断層帯の地震による津波の場合、高い津波は第1波のみで継続時間は約3分程度とされています。



Q 想定される津波高や最大津波高の到達時間の予測は？

A

呉羽山断層帯の地震		糸魚川沖地震		能登半島沖地震	
津波高	最大津波高の到達時間	津波高	最大津波高の到達時間	津波高	最大津波高の到達時間
2.3～7.1m	2分	0.3～0.7m	10分	0.3～0.5m	11分

Q 呉羽山断層帯の地震が発生した場合、7.1 mの津波が2分で到達するの？

A 本市は呉羽山断層帯と比較的近いことから到達時間が早く、津波も高いとされており、第1波は約3分間続くという結果が公表されています。しかし、海岸には防潮堤などの海岸保全施設もあり、7.1 mの津波が海岸に到達しても、海岸保全施設が機能すれば、津波の威力が弱まるものと想定はされています。それでも、県は最悪の事態を想定し、海岸保全施設が「機能する場合」に加え、「破壊される場合」も想定しています。今回「破壊される場合」の浸水想定図を広報と併せて配布しますので、ぜひご確認ください。

主な施設と浸水深

施設	浸水深(m)
市役所	0
寺家小学校	0
西地区公民館	0.5以下
旧海洋高校	0.5以下

Q 呉羽山断層帯の地震が発生し、防潮堤などの海岸保全施設が機能する場合と破壊される場合の浸水面積は？

A

①海岸保全施設が機能する場合		②海岸保全施設が破壊される場合	
浸水域面積(単位: km ²)		浸水域面積(単位: km ²)	
(内訳) 浸水深1m以下	0.4	(内訳) 浸水深1m以下	1.4
1～2m	0.2	1～2m	0.9
2m以上	0.1	2m以上	0.4
	0.1		0.1

※糸魚川沖地震と能登半島沖地震による津波で浸水が想定されている地域はありません。

Q 県の公表を踏まえての津波対策は？

A 市はこれまでも津波対策として指定避難所位置図(海拔表示入り)を全戸配布しており、また、指定避難所、自治公民館および電柱などに海拔表示板を設置しています。
 今後は、津波シミュレーションも参考としながら、極力、津波被害の軽減を図るため、防潮堤など海岸保全施設の補強や嵩上げなど実効性の高い施策を重点的に国、県に働きかけていくこととしています。

Q 自宅や事業所などが想定される浸水域かどうか確認したい。

A 県HPより「津波シミュレーション」で検索→「津波シミュレーション調査の調査結果の概要」を選択→「記者発表資料(平成24年3月30日)」を選択→右側の「関連ファイルのダウンロード」の欄の「別紙2」を選択すると、『呉羽山断層帯の地震による津波浸水想定(堤防等が破壊される場合)』がアップされており、地図を拡大することで確認が可能です。
 また、市HPの「トピックス」からも同様に確認できます。

資料提供 富山県 問合せ先 総務課(内線211) 県防災・危機管理課(☎444-3187(直通))

Net3(デジタルO91ch)で、富山大学の竹内章教授による「富山の地震と津波」と題した博物館友の会記念講演会の様子が放送されます。ぜひご覧ください。▼放送時間 6月3日(日)から9日(土)まで ①午後0時30分、②午後6時、③午後10時30分 ※③は土・日・月曜日のみ放送